6-14　実践協力校における実践
事例⑭　平塚市立勝原小学校
6年生　国語科（読むこと）

ポイントになる主な学びのプロセス

- **自分の身の周りのできごとに関心をもつ**
- **他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する**

Ⅰ　指導計画

1　単元名　　小学校　国語科　「町の未来をえがこう」

2　単元の目標　　平塚市立勝原小学校　学校教育目標「心豊かで自他を愛する子どもの育成」

「健康でたくましい子どもの育成」「磨き合い自ら学ぶ子どもの育成」

・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる効果的な表現の仕方を理解し、使うことができる。

・「町の幸福論」を読んで理解したことに基づいて、平塚市について調べた情報と結び付けて、自分の考えをまとめることができる。

【目指す子どもの姿】

・自分の身の周りや住んでいるまち等の身近な問題に関心をもち、自分のこととして捉えようとする姿。

・様々な考えに触れ、その中から自分の考えを構築しようとする姿。

3　単元を通した指導計画（16 時間扱い）

時	ねらい（◇）・学習内容（◆）
1	◇学習課題や単元の学習内容を確かめ、**自分の身の周りのできごとに関心を持ち**、学習の見通しを立てる。 ◆自分たちが住んでいる平塚市をどのような町にしたいかについて考え、プレゼンテーションを行うためにどのように学習をすすめるかを考える。
2～4	◇「町の幸福論」を読み、自分たちの町と関連させ、**自分の身の周りのできごとについて考える。** ◆教材を読み、自分の町と比較させながら、活動する。
5～7	◇自分たちが住む平塚市について調べ、「理想の平塚市」について、**児童同士で考えを伝えあい自分の考えを構築する。** ◆同じ考えの児童同士でグループを作り、理想の平塚市にするためにどのようなことをしていけばよいかについて意見交換をする。
8・9	◇他の地域での取り組みについて調べ、自分たちで考えた「理想の平塚市」について、**実現するための方法を考える。** ◆他の地域での取り組みを調べながら、自分たちが考えた理想の平塚市にするための取り組みについて、グループで提案する内容を検討する。
10～14	◇グループでの話し合いを通して、**他者の意見を認めたり、それぞれの意見のよいところを合わせたりと合意形成を図り**、考えをまとめる。 ◆提案内容と紹介する事例をまとめ、全体の構成や時間配分、資料の提示の仕方などについて話し合い、プレゼンテーションの準備をする。
15・16	◇それぞれの発表を聞き、他のグループの考え方を参考に、「理想の平塚市」になるための**自分の考えを再構築する。** ◆グループごとにプレゼンテーションを行い、自分たちの考えを発表する。

ポイント1

自分の住んでいる地域の現状や課題について触れることで、自分の周りのできごとに関心をもつ。

ポイント2

常に情報を手に取ることができるよう工夫し、他の地域の取り組みを知り、考えを広げられるようにする。

ポイント3

同じ考えや意見をもつ仲間同士でグループ化して検討する場面を設定し、他者の考えに触れる場を設定する。

Ⅱ　政治的教養を育むためのポイント

【年間を通して身に付けさせたい力】
・身の周りのことに関心をもち、自分の考えを構築する力。
・自分とは違う他者の意見を聞き、合意形成を図ろうとする力。

本実践における「政治的教養を育む教育」につながる活動展開例

【活動『理想の平塚市について考え、プレゼンテーションをしよう』】　課題に気付き、自分の考えを構築する活動

自分たちが住む平塚市の将来について考え、理想の平塚市にするためにどのようなことが必要かを提案するプレゼンテーションを行う活動を設定した。学習の始めに、児童にとって平塚市を身近なものとして捉えられるようにするため、平塚市から月２回発行される「広報　ひらつか」のバックナンバーから、まちづくりに関する記事が載っているものを教室に掲示して、常に子どもたちの目に触れられるようにした。さらに、平塚市の HP にある「平塚市総合計画 ～ひらつか NeXT～ひらつかのまちづくり　子ども版」の資料を全員に配付し、平塚市の実態や現状を全体で確認した。「こんな平塚市になってほしい」ということを一人ひとりが考え、全体で共有した。そこでは以下の４つの意見が挙げられた。

- 人が集まるような町
- 自然豊かな環境のよい町
- 経済が発展する町
- 安心、安全な町





児童から出てきた４つの意見をもとにグループを作り、理想のまちにするためにどのようなことをすればよいかということについてグループごとに話し合った。「人が集まるような町にしたい」と同じ目的意識をもつ児童の中にも、「市内の小中学校や公園、観光スポットなどをイルミネーションで飾りつけたい！」や「お花いっぱいの町にするっていうのもきれいだし、素敵じゃない？」などの具体案があり、どの取組みにするのがよいか、悩んでいる様子が見られた。しかし、**「この案はいろいろな年齢の方も来てくれそうだね。」「たくさんの人が来てもらうためには、〇〇さんの案みたいにポスターをつくるといいね」**といった話し合いがなされ、他者の意見を認めたり、それぞれの意見のよいところを合わせたりと合意形成を図りながら話し合いを進める場面が見られた。

本活動を通して見られた子どもたちの変化の様子・その先の取組み・成果と課題

変化・様子
- 最初は、話し合いが特定のメンバーだけで進んでいくことが多かったが、同じ考えの児童同士でグループをつくったり、他のグループの提案を聞いたりする中で、みんなで考えようとする意識が見られるようになった。
- 自分とは異なる意見に対しても、まずは耳を傾け、様々な考えを受け入れようとする雰囲気がうまれた。

成果
- 自分たちが住んでいる平塚市に対しての関心が以前より高くなった。
- 自分たちが住む町が今どういう状況なのかということについて真剣に捉え、当事者意識が出てきた。
- 地域のことを身近なものとしてとらえることで、自分なりの考えをもつことができた。
- 自分とは異なる他者の意見や考えに触れることで、新たな気付きや発見をする児童が見られた。

課題
- 自分たちが住む自治体を身近なものと捉え、自分のこととして学習を進められるよう、児童の生活と関わりのあるまちづくりについて、自治体の取組の様子がわかる資料を複数用意するとともに、資料の提示の仕方や身近に感じられない児童への支援について十分に検討する必要がある。
- 提案の中には、現実的には実行することが難しいものも見られた。自分たちの提案を客観的に捉え直させることや、近隣の中学校での「スタジアム建設を通して、身近な地域の課題」について考える実践（事例６－４）を紹介することなどを行い、発達段階に応じて身の周りのことを自分のこととして捉えることができるよう指導を考えていきたい。